



信州発 ⇒

“ずく”出して、世界への
はじめての一步 イマ・ココから

2019
訓練所開設
40周年
特集号

No.61
2019.10.1

JICA 駒ヶ根



国際協力

駒ヶ根から世界へ 訓練所開設40周年!

令和元年、駒ヶ根訓練所は、開設40周年を迎えました。地元の皆さまに支えられ、これまでに2万人以上の海外協力隊員を世界に送り出すことができました。改めてお礼申し上げます。

「国民参加事業」である青年海外協力隊事業の価値を体現する拠点として、「人材育成」と「地域活性化」に一層貢献していきたいと願っています。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。



1979年(昭和54年)開設当初の訓練所全景



開所式の様子

40周年に寄せて ～お祝いのメッセージをいただきました～



長野県知事
阿部 守一

駒ヶ根青年海外協力隊訓練所の設立40周年を心からお祝い申し上げます。
貴所が長年にわたり、多くの海外協力隊員を輩出し、国際協力に大きく貢献されていることに深く敬意を表します。あわせて、教育現場における国際理解教育、県内団体との連携事業等を通じて、県民の国際意識の涵養や地域の国際化にも寄与されていることに厚く御礼申し上げます。

県では、今後も、海外との未来志向の連携を推進してまいりたいと考えておりますので、引き続きグローバルな視点からのお力添えをお願いいたします。

貴所の益々のご発展をお祈り申し上げます。



駒ヶ根市長
杉本 幸治

駒ヶ根訓練所設立40周年、誠におめでとうございます。
当市は訓練所のあるまちとして、ネパールのポカラ市との交流を始め、様々な国際事業を通じて市民にとっても国際協力が身近なものになっており、それを活かしたまちづくりを進めています。新たな訓練手法である地域実践では、地域住民と候補者との交流促進や地域活性化に期待しています。

国際貢献や交流が必要とされている昨今において、ますます協力隊の活動が期待されると思います。そのような中、40周年を契機に駒ヶ根訓練所が益々ご発展されることを心からお祈り申し上げます。

40周年に寄せて ～お祝いのメッセージをいただきました～



飯島町長
下平 洋一

駒ヶ根青年海外協力隊訓練所の開設40周年を心からお祝い申し上げます。また、日頃から国際化の推進と国際化のまちづくりにご尽力いただいていますことに、厚くお礼申し上げます。

様々な場面における貴訓練所の職員の皆様や隊員の皆様と地域住民との交流等を通じ、地域全体として国際化への理解や実践が着実に進んでいるものと感じております。当町としましても、より国際協力・国際交流が進むよう、貴訓練所のご協力を賜りながら共に進めてまいりたいと考えております。

貴訓練所の益々のご発展を心からご祈念申し上げます。



中川村長
宮下 健彦

駒ヶ根青年海外協力隊訓練所設立40周年、誠におめでとうございます。

貴訓練所は、多くの国際協力人材の育成と国際交流の推進に大きく貢献していただいておりますことに、厚くお礼申し上げます。

隊員の皆様が赴任され、異なる環境の中でその国の人々と生活しながら国際協力をされていることに深く敬意を表します。

これからも、全国に2か所しかない貴訓練所が国際協力の拠点として益々のご発展を心から祈念申し上げます。



宮田村長
小田切 康彦

駒ヶ根青年海外協力隊訓練所開設40周年を心からお祝い申し上げます。

この間2万人を超える隊員の皆さんが任国に赴き、それぞれの国の人々と日常生活を共にしながら、様々な分野において国際協力を実践されていることに心から敬意を表します。

今後も訓練所活動を通じこの地域の皆さんが広く世界に目を向け、国際理解・国際協力がより一層推進されることを願うとともに、国際協力の拠点として益々ご発展されますことを心よりお祈り申し上げます。



長野県青年海外協力隊を育てる会会長
山浦 愛幸

青年海外協力隊駒ヶ根訓練所の設立40周年を、心よりお祝い申し上げます。

全国に2か所しかない訓練所の1つがある、それだけに協力隊への理解や支援がごく身近であることは本県にとっても誇りでもあり、貴重な財産でもあります。当会は、大いなる夢と使命感をもって任国・任地に赴いていく若き協力隊員の活躍を、地域から応援していきたいと考えています。国際協力に貢献する人材の育成と発信の拠点として、永年にわたる実績に改めて敬意を表しますとともに、貴訓練所が今後一層発展されますことを祈念申し上げます。



駒ヶ根育てる会会長
有賀 秀樹

訓練所開設40周年、誠におめでとうございます。訓練所は、地域にとって世界に通じる大きな窓であり、全国から志を持って集まった若者の存在は、かけがえのない宝物です。

昨年から、訓練所のプログラムに、新たに地域実践の講座が設けられました。地域の課題に訓練生が向き合い、その解決に挑戦するものです。私も受け入れ先の一つとして、主催している「学び舎」の若者たちと訓練生と、地域実践を通してコラボしております。大きな可能性と手応えを得ています。今後とも地域と共にある訓練所を全面的に支援していきます。



青年海外協力隊長長野OB会会長
杉田 威志

駒ヶ根訓練所設立40周年おめでとうございます。

私自身の派遣前訓練は駒ヶ根ではなかったため、駒ヶ根訓練所と関わるようになったのは青年海外協力隊長長野OB会に入ってからです。多くの活動を訓練所と共に行い、国際協力に関わり続けることができ、学べる事にとても嬉しく、感謝しております。海のない県でありながら、県民の国際理解が深く、開かれたイメージを私が持つことが出来るのは、ひとえに駒ヶ根訓練所があるからだと思います。これからも長野県の国際協力の要として50年、60年と益々のご発展を心からお祈り申し上げます。



青年海外協力協会会長
雄谷 良成

私が駒ヶ根訓練所にお世話になったのは昭和61年。課外活動で行った養鶏場、残暑が続く中、鶏糞を袋に詰める作業は厳しかった。粉塵が鼻腔に張り付き作業後にもらった林檎はほのかに不思議な匂いがした。

昨年、私たちは本部を東京から駒ヶ根に移しました。「原点回帰」、今一度創設の志を確認したかった。この一年、駒ヶ根の皆さんと過ごしながら感じたことは、訓練も派遣もプロセスであってゴールではないということ。帰国後も持続する情熱、駒ヶ根から全国へ、そして今一度世界に。青年海外協力隊は「生涯協力隊」を目指したいと思います。

歴史を振り返る

～駒ヶ根訓練所開設の経緯～



竹村健一元駒ヶ根市長著 「観生進退の記～役所生活50年～」より

青年海外協力隊の訓練所が駒ヶ根に設置されることになった経緯については、竹村健一元市長の回顧録「観生進退の記～役所生活50年～」の中で詳しく触れられている。

同回顧録によると、ことの発端は北原名田造市長時代の昭和40年頃に遡る。当時、北原市長と座光寺助役が、開発途上国の青年達の研修施設として亜細亜大学の分校を駒ヶ根に建設してはということになり土地も確保し話を進めたが、途中で立ち消えとなった。

その後、協力隊事務局が派遣人数増を目指し、東京広尾にあった訓練所に加え、第二訓練所の建設を計画する中で駒ヶ根市出身で外務省に勤務していた長沢久四郎氏が、協力隊事務局の参事をしていた関係から訓練所の誘致を座光寺市長に呼びかけたとのことである。

訓練所の誘致を進めるにあたり、地域振興の観点から地域振興整備公団理事長の平田敬一郎氏に相談することになった。平田理事長は元国税庁長官から大蔵事務次官になった人物で、この話に大いに乗り気になって、さっそく国際協力事業団(現国際協力機構)の法眼晋作総裁に伝え、平田理事長、法眼総裁、伴協力隊事務局長が非公式で駒ヶ根市を視察することになった。

その頃、中央道の工事が進んでおり南割の土取り場跡地を総合グラウンドにする計画があった。ここは標高800m、中ア山麓をバックに駒ヶ根の市街地を一望し、遠く南アルプス連山を望む絶好の地である。その隣を適地と考え案内したところ、3人とも大いに気に入って、借地契約で建設することになったと記している。

しかし、問題があった。百数十名の訓練生の炊事、洗濯、浄化トイレ、浴場等の生活雑排水の放流先をどうするか。ちょうどそのころ、中央道の駒ヶ根サービスエリアが訓練所予定地の近くに建設されることになったことから、SAの設計を少し大きくし、そこに訓練所の排水パイプをつなげることで解決したと記されている。

その後、座光寺市長から竹村市長に交代したが、話は順調に推移。大学誘致と異なり、県知事や代議士先生の手を煩わせることはなかったとのこと。

後日、訓練所の開所式に吉村副知事に出席してもらった際、「こんな立派な国の施設が駒ヶ根に出来ることを知らなかった」と言われ、竹村市長は複雑な気持ちになったと述べている。

建築工事は順調に進み、昭和54年5月1日に第一期訓練生が入所、同月24日に開所式が行われた。

以上が駒ヶ根訓練所開設に至る経緯である。

駒ヶ根訓練所 40年間のあゆみ

昭和40年	青年海外協力隊(JOCV)発足
昭和49年	青年海外協力隊長野県OB会発足
昭和54年	駒ヶ根訓練所開所 :年間4隊次、候補者100人規模でスタート
昭和58年	駒ヶ根協力隊を育てる会設立
昭和61年	長野県青年海外協力隊を育てる会 設立
昭和63年	研修棟・講堂増築 1隊次190名規模となる
平成3年	駒ヶ根訓練所修了者が5,000人を突破
平成6年	二本松訓練所開所 広尾、駒ヶ根、二本松の3か所で訓練が同時並行で実施
平成10年	駒ヶ根訓練所開設20年の集いを開催
平成12年	研修棟増築につづき、宿泊棟増築。居室はすべて個室となる
平成13年	長野県JICAデスクを長野市に開設 駒ヶ根訓練所修了者が10,000人を突破
平成18年	駒ヶ根訓練所にてシニア海外ボランティア(SV)の訓練を開始
平成21年	駒ヶ根訓練所開設30周年 駒ヶ根訓練所修了者が15,000人を突破
平成26年	駒ヶ根市制60周年、駒ヶ根訓練所開設35周年。 駒ヶ根市と共催で記念セミナーを開催
平成27年	青年海外協力隊(JOCV)発足50周年
平成29年	駒ヶ根訓練所修了者が20,000人を突破
令和元年	駒ヶ根訓練所開設40周年

紙面座談会

「地域と共に歩んだ40年 ～過去から未来に向けて～」

司会進行：清水 勉（駒ヶ根青年海外協力隊訓練所長）
ゲストスピーカー：杉本幸治氏（駒ヶ根市長）
高坂 保氏（駒ヶ根協力隊を育てる会名誉会長
元訓練カウンセラー）
加治木 今氏（前駒ヶ根市議会議長）
宮澤清高氏（元駒ヶ根JC会員）
北原照美氏（駒ヶ根市出身協力隊OG）



○清水所長

今年駒ヶ根訓練所は開設40周年を迎えました。今回は、皆さんがどのようなきっかけで訓練所と関わってこられたのか、また、これからの訓練所に期待することについてお聞きしたいと思います。

～駒ヶ根訓練所と関わるきっかけ～

○杉本市長

私が訓練所のことを最初に知ったのは、県職員として人事担当をしている時です。当時は休職しないと協力隊に参加できなかったのが職場の理解も得にくかった。そこで、条例を作って現職のまま派遣して後任者も補充するようにしたのが一番印象的です。

また、事業仕分けで「訓練所は要らないんじゃないか」と大勢の方が視察に来られた時に、いかに協力隊が国際貢献

を果たし、地域の人々が訓練所を誇りに思っているかを多くの皆さんが熱心に語ってくれたのは嬉しかったです。

あと、協力隊50周年記念式典が横浜で開催されて、赤穂中学校在学中に駒ヶ根市のネパール派遣に参加した2人の女の子が、両陛下の前で国際協力エッセイの入賞作品を発表してくれたんです。あれも感動的でしたね。



杉本幸治氏

○加治木氏

1997年に駒ヶ根青年会議所(JC)のメンバーとネパールで青空ミシン教室をやるということになり、当時の所長にお話を聞きに伺ったのが、訓練所との初めての出会いでした。その後、高坂先生のご紹介もあって、家政の訓練生が派遣前に足踏みミシンの経験をしたいということで、うちの教室に来ていただいて一緒にやったりしました。その中にいた戸田さんという女性が、ノートにぎっしり自分がやりたいことを書いてきたのを私は今でも覚えています。彼女がネパールの派遣先の方と一緒に作ったものが、ヨーロッパのフェアトレードで売れるところまで持っていったということから、訓練所や協力隊はすごいんだと感じたのが、一番印象が強いところです。

○高坂氏

私が訓練カウンセラーをやっていた頃の訓練生からは、地域の方で誰か講師をしてくれないかという相談が非常に多かった。足踏みミシンの研修も、訓練生の提案が発端で、加治木さんをお願いをしたんです。他にも、八十幾つくらいになる箕輪町の元生活改良普及員のおばさんに来てもらって、戦時中のかまどの改善だとか、冠婚葬祭が簡略化していく問題だとか、そういうような話をしてもらったり、測量や竹細工なんかもやりました。当時は、そういうダイナミックな連中が多かった。

○宮澤氏

私は、1989年に36歳で駒ヶ根青年会議所(JC)に入り、国際化推進に取り組む中で、「自衛隊の鬼の体験入隊」みたいなものの子供版ができないかという案が出てきました。それがきっかけで中学生の協力隊体験入隊を始めて、ずいぶん力を入れて取り組みました。

また1993年に協力隊OBに協力してもらって国際広場の第1回目を開催しました。これがみなこいワールドフェスタとして続いて今年で26回目になります。

ちなみに駒ヶ根青年会議所の手帳には『若い力』（協力隊の隊歌）が載っています。毎月の例会で必ず歌っていたので、今でも歌えますよ。

そういうわけでJCと訓練所は1992年から密接になって、いろいろな事業に関わらせていただきました。

○北原氏

子どもの頃の訓練所の印象は「怪しい集団」ですね。（一同笑い）

当時は今よりも山や林に囲まれていましたし、走って叫んで歌って、分からない言葉をしゃべる集団がいるという感じで、子どもたちの中では、あんまり近寄らない方がいいという場所でした。

その後、2002年に自分が協力隊に合格して訓練生になってみると、周りの訓練生たちが本当に生き生きしている人たちだったんです。自分にとって訓練所の90日間（当時）は、隊員時代とは全く別の一つの人生の宝です。そのとき強く思ったのは、訓練所にいると自分のことをありのまま出しやすくなったり、周りに感化されもっと元気になったり、人同士の相乗効果が素晴らしく、一人ひとりが生き生きしてくることをすごく感じました。

現在は、ネパール交流市民の会のプロジェクトでたくさん支援を協力隊から頂いて、地域から発する、地域とつながる世界との国際協力をやらせていただいています。これは協力隊があつてこそだと思っています。

○高坂氏

私が関わりを持つようになったのは、1989年10月に教育長になって、訓練所の入所式・退所式に参加するようになってから。こんな身近にこんなすごいものがあるんだというのを初めて知ったのがきっかけです。

その後、1995年に訓練所のカウンセラーで隊員と直接関わるようになりました。あの頃の隊員というのはまあたくましいこと。早く言えば「ゴタ小僧たち」だね。最初は、隊員として行って何をどうするという動機が全然はつきりしない。そういう連中が修了式のときには全く変わってしまうのを見て、この訓練所というのはすごいところだと、教育に取り入れられない手はないと思いましたね。それで学校交流というのを始めたんです。

学校交流や中学生ネパール派遣、訓練所の体験入隊を体験した子どもたちが、その後、隊員になったり、街の活動の仲間に入って育てていくということが地域の国際化につながっていく上で非常に大事なことで、ありがたいことだと

思っています。



加治木 今氏

～訓練所の地域における役割は～

○清水所長

これまでの活動も含めて、訓練所の地域における役割や期待についてお聞かせください。

○杉本市長

中学生のネパール派遣に参加した子どもたちが、行く前と帰ってきた後とでは見違えるようになって、ネパール地震の際には自主的に支援活動を始めました。やはり訓練所があることで、国際感覚を身につけながら、子どもたちが育っていると感じます。

また、駒ヶ根市が一貫して母子保健プロジェクトを進めてきたということが、外務省やJICAで評価されて草の根技術協力事業になった。それも行政が中心ではなくて、市民の皆さんが主体的にネパールからの研修員の受け入れまで任せられている、これは駒ヶ根市民の宝なんじゃないですかね。

今、日本自体が硬直化してしまって新しい発想ができない中で、協力隊員として行ってきた皆さんには、日本を変えるようなすごい力を感じます。駒ヶ根市が訓練所と一緒に街づくりを進めていることが評価されて、協力隊OBが組織する青年海外協力協会（JOCA）が、本部を駒ヶ根に移して、少子高齢化が進む街中の活性化に向けて挑戦しています。国や民間企業に関心を持ってもらって、ワーケーションなどにも取り組んでいます。訓練所がある街として新しい仕組みづくりができたらいいなと思っています。そういう中から日本を背負って立つような人材育成ができればいいと思っています。

○清水所長

ワーケーションなどで来る人たちの学びの場としても訓練所の活用のポテンシャルがありますね。

○杉本市長

訓練所には語学訓練のノウハウがありますし、訓練回数が年間4回から3回になり、訓練期間外で、訓練所と一緒にやろうと投げ掛けているんです。

民間企業は、個人で動けて個性のある人を求めるようになってきました。要するに、物事を解決していく能力の低い調整型の人ばかりが多くいる中で、かつての日本のように、目標に向かって打ち破っていく人材として、隊員経験者の皆さんがうんと求められるようになってきた。訓練所の果たす役割はもっと大きくなるんじゃないですか。



高坂 保氏

～新しい人材育成の場としての訓練所に期待～

○高坂氏

新しく「地域実践活動」(注)の取り組みを訓練所に導入してくれたことは、協力隊精神を持った創造的な青年をつくり上げていく新たな青年育成ですね。

○加治木氏

地域実践を受け入れてみて不思議だなと思ったのは、隊次が代わると訓練生は入れ替わっていくのに、活動には継続性があって前の隊次の活動をうまく生かしていることです。私たちも候補生の「あっ」という提案を生かすこともでき、候補生も「えっ」という経験をします。活動の最初と最後では候補生の顔つきが変わり、やり遂げた自信に満ちた顔になりますよ。

○清水所長

地域実践では、協力隊員が現地で経験すること、つまり、赴任当初なかなかコミュニティに受け入れてもらえないという状況を、地元の住民を巻き込んで派遣前に経験する貴重な機会になっています。

○北原氏

訓練中の候補生、帰国した隊員、これから協力隊となって海外へ行きたいと思を持っている人、地域で協力隊を支えている人、こういった様々な人々が、まちづくりについて自由な発想で話して実践していく「場」があるといいなと思います。

○杉本市長

協力隊が、これから必要な人材になることは間違いない。帰国後に駒ヶ根市にきたら仕事が探せるという仕組みをつくっておかないとね。訓練所が中心となって、帰国隊員に就職相談をする場をぜひ作ってほしい。

○宮澤氏

人材を求める側と協力隊を経験した若者をうまくマッチングできる、コーディネーターがいればいいですね。

○北原氏

駒ヶ根市民の皆さんにも、協力隊経験者という起爆剤と関わることで、「えっ、そんな才能があったの」と周りが驚くくらい生き生きと自分の能力を発揮される方が多くいらっしゃいますよね。

○宮澤氏

訓練所が地域に何かを与えるという視点ではなく、訓練所を介した異文化交流を通じて地域住民各々が学び取る、そんな「開かれた拠点施設」であってほしいですね。

○高坂氏

訓練所自らが地域に向けて訓練所活用のメリットを提案する。併せて、地域からも訓練所に期待することを挙げてもらう。両方を突き合わせて考えてみると、お互いに望むことが見えてくるんじゃないかな。そこは是非若い人の発想でお願いしたいですね。



宮澤清高氏



北原照美氏

○北原氏

やっぱり訓練所で仲間と寝食を共にするというのは、ボランティアスピリットを育むうえで大きいですよ。

○高坂氏

若い連中と年寄りが訓練を一緒にやるというのは、互いに労わったり学んだりしながら仲間意識が育つのでいいこと。

○北原氏

会社にいたときは部下だったような人が、訓練所では同等になる。健全な気はしますね。

今年1月の中学生ネパール派遣に引率として参加した先生方が「子どもが育つというのはこういうことか」と日に日に表情が変わっていった。やっぱり実際に行っていたかと全然違いますよね。

○高坂氏

そう、実体験が大切だね。例えば市民に訓練の修了式に出席してもらおうとか、訓練を体験してもらおうことを考えていかなきゃいかんね。

○加治木氏

中学生の体験入隊も伊南市町村で広く受けてもらえるといいですね。

○北原氏

全国各地から来ている候補者たちと話をすると、「この街の人は誰でも協力隊を知っているのが驚きだ」と言っていました。「うちの街なんて協力隊なんて分かる人は全然いない」と言っ。駒ヶ根はやっぱりすごいんだなというのを初めて知りました。

～多様性に富んだ協力隊経験者の活躍に期待～

○宮澤氏

今年の大使村まつりの時に、OBの方がうちに飲みに来てくれました。語学の先生は誰だったとか話をしてくれて、訓

練所に思い入れの強い人も結構いますよね。

○北原氏

駒ヶ根に来たい、住みたい、でも仕事かね、という人はいます。でも、ワーケーションができるようになれば、その可能性はすごく高いなあと思うんです。

○加治木氏

やはり今は、海外での経験など多様な経験を生かせる環境が整ってきているというのをすごく感じますよね。訓練生もとても変わってきているし、女性がすごく積極的です。

○北原氏

協力隊の強さは多様性ですよ。協力隊に行って、世の中には多様な考え方・生き方があるよねという、多様性を身につけて帰ってくる。それをこの地でうまく生かしていけたらと思います。

○宮澤氏

異文化の中でコミュニケーションを取ってきた人たちがまた戻ってきて、もう一回地域づくりに力を発揮してくれたら、とてもありがたいですね。

○清水所長

本日は、訓練所の40年を振り返りつつ、今後のあるべき姿について皆さんから大変貴重なご意見、示唆に富むお話を伺うことができました。

訓練所も皆さんのご協力を得て、期待に応えるよう努力して行きたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。



清水 勉所長

(注)「地域実践活動」とは、派遣国で配属先関係者に受け入れてもらう手法を、地元の市民活動グループなどに出かけて学ぶ活動。地元の団体と共に課題の分析や情報収集、改善案の提案などに取り組む。

第26回 みなこいワールドフェスタ

26回目を迎える今年の「みなこいワールドフェスタ」では、駒ヶ根訓練所開設40周年を記念し、下記の各種イベントを開催します。また、最終日の「こまがね国際広場」は「第2回こまがね大使村まつり」との同時開催とし、各国大使関係者のブース出展やステージ出演を予定しています。「参加し・体験し・感じてもらう」国際文化に出逢えるこの機会に、皆さまご参加ください。



●期 日 / **10月19日(土)～10月27日(日)**

●協力隊週間企画

名 称	開催日	時 間	会場等	内 容
地球の料理教室	10月19日(土)	9:30～13:00	中川村 中川文化センター 調理実習室	食を通して海外を身近に感じていただくための、地域住民を対象にしたネパール料理の教室です。おいしい料理を一緒に作りましょう。 定員:30名 要申込(参加費500円)
駒ヶ根訓練所開設40周年記念 「トークイベント～日本も世界も元気にする協力隊～」	10月20日(日)	13:30～15:00	JICA 駒ヶ根青年海外 協力隊訓練所	JICA駒ヶ根青年海外協力隊訓練所開設40周年を記念し、協力隊経験者をお呼びしたトークイベントを開催します。人口減少時代を迎え、今後ますます世界の人々とのつながりが大切になってきます。国際感覚を学べる貴重な機会です。 定員:100名 要申込(無料)
ペルーのエンターテインメントの話 & デュオ・コトリーナコンサート	10月20日(日)	19:00～21:00	飯島町 飯島町文化会館 小ホール	元ペルー隊員で音楽家の北原有さんがペルーの山地で出会った音楽家、大道芸人などエネルギッシュな人々について語ります。後半は松本市のハーブ奏者市原寿美さんをお招きしたオカリナとケルトハーブのコンサートを開催します。 定員:100名 要申込(無料)
地球のステージ	10月21日(月)	19:00～21:00	JICA 駒ヶ根青年海外 協力隊訓練所	桑山紀彦医師が世界の紛争、災害地域をめぐり、そこで出会った人々の姿をオリジナルの歌とハイビジョン映像で贈ります。 定員:50名 要申込(無料)
映画 「クロスロード」 上映会	10月23日(水)	18:00～20:00	駒ヶ根市 総合文化センター 視聴覚ホール	「クロスロード」は、青年海外協力隊発足50周年を記念して製作された映画です。フィリピンに派遣された対照的な2人の隊員の生き様を通じて、協力隊員のリアルな姿を描き出した映画を上映します。 定員:40名 要申込(無料)
こまがね国際広場 & 第2回こまがね大使村まつり	10月27日(日)	10:00～15:00	駒ヶ根駅前 広小路・銀座商店街	世界の文化紹介ステージ、国際協力活動の紹介やフェアトレード製品の販売等のブース、世界の料理を味わう屋台、世界の言葉を習う語学教室、国際理解を深めるスタンプラリーを行います。

第26回みなこいワールドフェスタ実行委員会 事務局

駒ヶ根市役所 企画振興課 地域振興係

担 当 : 大森 TEL : 0265-83-2111(内線244) FAX : 0265-83-4348

E-Mail : s.08543@city.komagane.nagano.jp

申し込み用
QRコード▶



発行 独立行政法人 国際協力機構
駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15
TEL.0265-82-6151(代) FAX.0265-82-5336
E-mail jicakjv@jica.go.jp
https://www.jica.go.jp/komagane/index.html

JICA駒ヶ根 facebook ページを開設!

<https://www.facebook.com/jicakomagane>

JICA駒ヶ根 メールマガジン

☐ 配信希望の方は jicakjv@jica.go.jp までメールでご連絡ください!

JICA駒ヶ根では毎月1回メールマガジンを配信しています。県内の国際協力に関する動きやイベントなど、耳よみな情報をリアルタイムでお届けします。